

2020年度【オンラインで開催!!】 申込締切:11/13(金)

2019年度【7都市 7回開催 280名】 / 2016年度【7都市 7回開催 280名】

2015年度【10都市 11回開催 402名】 / 2014年度【6都市 8回開催 185名】

2013年度【2都市 6回開催 147名】

11/29 研修1日目
【開始10:00~終了14:00】

12/13 研修2日目
【開始10:00~終了14:50】

1/10 振り返り(希望者)
【開始10:30~終了12:00】

※本研修はWEB会議ツールを活用して開催致します。Zoomというオンラインツールを使用するため、安定したインターネット環境(Wi-Fi)に接続した端末からの参加が必須となります。(ポケットWi-Fiやモバイル回線は速度制限や通信が不安定になるため、推奨致しません。)

Skill Up研修 受講料 15,000円 / 1人

※受講料には【参加費】【オリジナル研修テキスト】+アソシアが使用している【基本情報シート】【ストレスアセスメントシート】【就労アセスメントシート】【個別支援計画書】が含まれております。テキスト並びに資料につきましては、郵送させていただきますので受取先住所を申込時にお伝えください。

※誠に勝手ではございますが、1法人からの参加数は2名様までお願い申し上げます。定員が30名に達し次第、申込みは閉め切らせて頂きます。申し込みの進捗状況に関しては直接お問い合わせ頂くか、アソシア公式HP研修サイトページからご確認ください。
※領収書と修了証に関しましては、研修終了後に郵送させていただきます。

お申込みフォーム → URL http://associa-lnd.co.jp/lecture_category/skillup/
お問合せ → event@associa-lnd.co.jp 研修に関する問合せ連絡先: 098-926-5175 / 090-1774-5176



アソシアって?

アソシアは2009年12月よりスタートした福祉事業所で、本年度で創立11周年を迎えます。2018年12月15日には日本精神障害者リハビリテーション学会 第11回ベストプラクティス賞を受賞しました。「JOB -働く-」「FUN -楽しむ-」「LIFE -生活する-」の視点から、福祉施設のイメージが変わる以下のサポートを提供しています。

就労移行 / 就労継続B型 / カフェアソシア(飲食事業) / ヴィラ(民泊事業) / 生活訓練 / 放課後等デイサービス&ルネサンス高校(16歳~18歳) / 計画相談 / 訪問看護 / 共同生活援助 / 計画相談(兵庫県神戸市) / 県立高校の居場所づくり運営支援事業(沖縄県より受託) / 高校中退等キャリア形成支援モデル事業(沖縄県より受託) / 就労移行支援・就労継続B型・計画相談(兵庫県川西市) / うるま市若年妊産婦の居場所運営事業(沖縄県うるま市より受託)



企画・運営 アソシア

〒904-0117 沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8 法人宛
TEL 098-926-5175 FAX 098-926-5176
URL www.associa-lnd.co.jp
Mail event@associa-lnd.co.jp

presented by Associa

視点が変われば支援が変わる
まず変わるのはアナタなのかも
知れない

<http://associa-lnd.co.jp>



01

基礎知識がしっかりと学べる

障がいがある方の支援をおこなっていく上で知っておかなければならない「ＩＣＦ」や「ノーマライゼーション」なども、分かりやすく説明いたします。本を読むような説明ではなく、**実際の事例や自分自身におきかえる**ので、とても分かりやすくなっています。

02

現場で生きる実践スキル

本研修の一番の目的ともいえる部分が「現場で使える実践スキルの習得」です。「勉強になったなあ～」と感じる研修や講演は多くありますが、「では、明日から使えるか」となると「ためにはなったけど・・・」という経験はありませんか？

よって、研修のスタイルも一方的に講師が話しをする事はほとんどありません。**実際に体験し、他の受講生とシェア**しながら「自分だったら、明日からどのように使えるのか」を体感する内容となります。

04

面談スキルが身に付く

傾聴や共感、ラポール（信頼関係の構築）が大切だとは、よく聞きますが、では具体的にどのような態度や口調、話し方をするのが良いのか習ったことはありますか？

本研修では、皆さんと一緒に、そうした態度や口調、表情、セリフなどを演じてみる事で、先ず**自分自身が体感する事で面談スキルの獲得**を目指していきます。

05

プラン作成は難しくない

個別支援計画やサービス等利用計画がいつも同じようになってしまう。アイデアは湧くけどプランに起こすのが難しいという方も少なくないのでは。

実は**プラン作成というのは難しい作業ではありません**。あるポイントを押さえる事で作成時間は20分もあれば完成します。大切なのは紙面とにらめっこしない事です。

03

眠くならない体験型研修

集中力の持続時間は15分とも言われております。よって、本研修では講師が15分以上続けて話しをすることはありません。受講生同士で考えたり、**つついっ笑ってしまうような楽しい演習**を挟むなどの工夫が随所でされております。

「演習やロールプレイって苦手だな」という方も少なくないはず。本研修では「知らないことを人前で答えさせる」ような事は致しません。**職種や資格の有無、キャリアに関係なく「安心して受講できる」**配慮も常に意識しております。

他職種のスキルが一度に学べる

本研修は、福祉国家デンマーク留学経験もあり現場経験（作業所 / 地活 / B型 / 就労 / 生訓 / 相談 / 不登校支援等）が豊富なメイン講師を中心に、精神科医療現場での経験のある精神保健福祉士や社会福祉士、作業療法士、臨床心理士などと一緒に研修プログラムを構築しております。

また、本研修を企画運営しているアソシアには、ピアスタッフとしてではなく、実際に特性や個性の強いスタッフも多く勤めています。よって、専門職によるガチガチな理論研修ではなく**理念や当事者の方の日常性に即した実践的な理論**がベースとなったスキルが学べる数少ない研修となっております。

本研修の目的

サビ管・相談研修とは違う!実践で使える個人のスキル獲得

本研修は今年で6年目となります。もともと本研修を企画したのは2つの理由があります。

1つ目の理由としては「サービス管理責任者研修や相談支援専門員初任者研修（現任者研修）を受けたけど、実際に現場に帰ってどうしたらいいか分からない」という声が多くあった事です。このような資格付与研修の目的は、事業所運営やサービス提供をする際に最低限理解しておかなければならない制度や役割を理解するた

福祉の基本

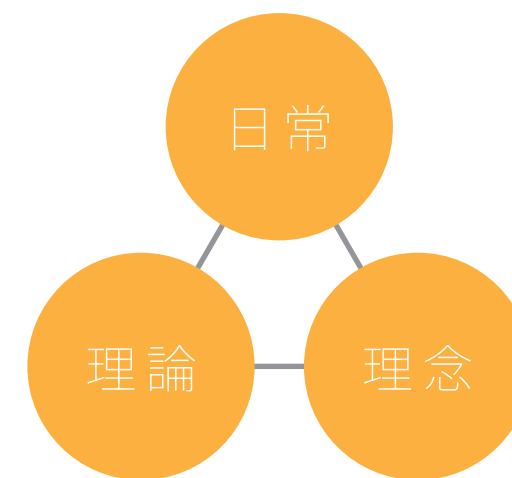
3つの重要なバランス

理念が大切なのか？理論が大切なのか？いやいや実践でしょ……。本当はどれも大切です。

障がいがある方の日常生活のし辛さや置かれている環境を考慮しない、ないがしろにした理念や理論は本末転倒です。またエンパワメントやノーマライゼーションなどの理念なき支援というのは、よもやすると支援者の価値観や法人としての事業優先によっておこなわれてしまう危険性を含んでいます。同じように理論に基づいていない支援や関わりというのは、一

貫性に乏しく説明責任が求められる状況や、人材育成においても根拠に欠け、支援というサービス提供において「質の保証」が困難になります。

本研修は、日常生活において「生きづらさ」や「生活のしづらさ」「ご本人の想いをカタチにしていこう」ことに寄り添い支えていくための土台となる理論から、障がいの有無に関係なく、「ヒトとして安心して生活できる社会」とは何なのかを具体的かつ実践的に学べる研修となっております。



めの研修でもあります。よって「直接援助のスキル向上のみ」を目的としているワケではありません。

2つ目の理由は「上記の研修には、有資格者で5年、無資格者だと10年の経験が必要で、それに満たないスタッフが受けられる共通のスキル研修が少ない」という声でした。

平成18年に障害者自立支援法が施行され、措置からサービスへと福祉が変わりました。言い換えると「福祉」が「保障」から「サービス」へと移行し、当然「支援」という「質」というのは国や都道府県が保障するものではなく、事業所が利用される方のために日々研鑽し、選ばれるサービスを提供しなければなりません。

しかし、「医療・教育・福祉」が、どこに住んでいても、どこに通っていても等しく受けられるものであるためには、サビ管や相談支援専門員だけが受けられる研修だけではなく、制度や役割、連携などを知る研修でもない、今日の前にいる利用者の方と接する全ての支援者が受講できる研修の必要性を強く感じ、本研修がスタートしました。

今までにない具体的かつ すぐにでも実践スキルが学べる

2014～16 年度のスキルアップ研修

1 日目		2 日目	
受付	09:10	受付	
導入、アイスブレイク	09:30	1 日目の振り返り	
ノーマライゼーション	10:00	M A T	言語的説得
基本的視点	10:30		代理経験
	10:45		達成体験と活動分析
分かる I C F	11:30		
ストレングスモデル	12:30	昼食	
昼食	13:15	自己理解の心理学	心の利き手とは
面談スキル	13:45		外向と内向の違い
	14:00		直感と感覚の違い
	14:15		感情と思考の違い
	14:45		判断と知覚の違い
	15:15		意識と無意識の働き
傾聴の定義と効果	15:45	2 日間の振り返り	
受容的傾聴とは	16:15		
積極的傾聴とは	16:30		
具体化する面談法	17:00		
1 日目の振り返り			



2020 年度のスキルアップ online 研修

11 月 29 日 (日)		12 月 13 日 (日)	
受付	09:45	受付	
導入、アイスブレイク	10:00	1 日の振り返り	
基本的視点	10:05	面談スキル	具体化
	10:15		16の欲求
ICF	10:40		面談技法まとめ
基本的視点	10:50	休憩	
	11:10		
	11:15	アセスメント	スケーリング
	11:25		ナラティブ
リフレーミング	11:40	休憩	
ストレングス	12:00		
	12:10	昼休み	
基本的視点まとめ	12:25	アセスメント	タイムマシーン
昼休み	13:10		プランニング
面談スキル	13:40		アセスメントまとめ
	13:45	2 日間の振り返り	
振り返り	14:00		
受動的傾聴	14:20	修了証 & 閉会	
	14:40		
積極的傾聴	14:50		

2019 年度のスキルアップ研修

1 日目		2 日目	
※ 1、研修日程は簡略版となっております。実際には15分の小休憩や講義、演習などが細かく設定されております。※ 2、表の研修日程は各会場により借用時間等が異なる場合があります。多少(30分前後)変更される場合があります。※ 3、実際の研修と表の研修日程にある文言には多少の差異があるものもございますが、内容等に関する変更はありません。		NEW	
受付	09:00	1 日目の振り返り	
導入、アイスブレイク	09:30	NEW アセスメント プランニング	外在化(スケーリング)
基本的視点	10:00		ストレングスアセスメント
	10:30		ミラクルクエスト
ICF	11:00	全体まとめ	
リフレーミング	11:30	2 日間の振り返り	
ストレングス	12:00	修了証 & 閉会	
休憩	12:30		
面談スキル	13:00	自己理解の心理学	心の利き手とは
	13:30		外向と内向の違い
	14:00		直感と感覚の違い
	14:30		感情と思考の違い
	15:00		判断と知覚の違い
	15:30		意識と無意識の働き
受動的傾聴	16:00		
積極的傾聴	16:30		
具体化する面談法	17:00		
1 日目の振り返り	17:30		
2 日目の振り返り	18:00		

2014～2016 年度のプログラムでは、脳疲労を起こすほど詰め込んだ内容でしたが、2019 年度からはダウンサイジングすることになりました。「実践できる」部分に絞ることで、聞きっぱなしの研修ではなく、「具体的に持って帰れる」研修へと構造化しました。また、相談支援専門員とサービス管理責任者の研修が一本化される中、プラン作成(ケアマネジメント)に重点をおき、「プラン作成するための聴き方」に重点をシフトしました。2020 年は、2019 年度の内容をオンライン研修で実施。

NEW

ナラティブやオープンダイアログ、S F A などの手法を取り入れた『ストレングス・アセスメント』

※SFA(ソリューション・フォーカスト・アプローチ)。※ナラティブ・アプローチやSFA、オープンダイアログが学べる訳ではありません。それらを全く知らなくても研修は十分に理解でき、皆さんの実践に持ち帰る事はできます。ただ、知識としてだけでもいいので、知っておくと「腑に落ち感」や「納得感」は高まりますので、事前にインターネットなどで調べておくことをお勧めします。

以前のスキルアップ研修は、現場スタッフ含め幅広い層を対象とした内容となっております。今回の研修は、本年度より見直された相談支援専門員初任者研修とサービス管理責任者研修を念頭におき、『ソーシャルワーカーとしてのアセスメント力・プランニング力』に重点をおきました。

「本人」の今までの人生を時系列で聞き出し、「本人」が過去の出来事で乗り越えて来た際のストレングスにフォーカスすることで、「支援者」のアイディアではなく、「本人」のやり方でこれからの困難や課題と向き合っていく「本人の人生の延長上のプラン」作成が学べます！

サービス等利用計画や個別支援計画が、なぜ「絵に描いた餅」になっているのか？それは、「本人のやり方」ではなく、「支援者が考えたやり方」だからです！アソシアが独自開発し、活用しているフォームを実際に研修で使用し体験することで、日常の面談の質（何を聴かなければならないのか）が、劇的に変わります！



NEW アセスメント&プランニング

2019年度からの新しいコマであり、もっとも大きなポイントの一つでもあるアセスメント&プランニング。

以前は4つのコマで構成されていましたが、一体感に乏しく、覚えることが多くありました。今回は、1日目の「基本的視点」「面談スキル」で学んだ全てのスキルと知識を活用して、サービス等利用計

画や個別支援計画に反映させるといった具体的かつ実践的なゴールとなるのが、このコマとなっております。

ナラティブ・セラピーにある、本人の物語を適切なものに変えていくために、人生を気分で時系列にスケーリングすることで、出来なかった自分にではなく、乗り越えた自分の強さに着目。そこには本

人の人生において共通したストレングスが確実に存在します。

SFAやAnticipation Dialogue(未来語りのダイアログ)の手法にもある、肯定的で理想的な未来から振り返り、そこに向かうために「自分がやって来たやり方で、やれそうな所」から始めていく。まさしく本人主体のプランの作り方が学べます！

2019年度 アセスメント(満足度92%)

ICFやリフレーミング、ストレングスなどは、今では多くの研修で「基本」として扱われることが多くなっています。今更聞けない基本的な視点を、体験的な演習を通して分かりやすく学んでいきます。
「なんとなく聞いた事があるけど、説明するのは難しい」という I C F。多分、日本で一番分かりやすい内容となっています・・・(A3^)
また、チャールズ・ラップ／リチャード・ゴスチャ著『ストレングスモデル』の最も大切なポイントや、事例を通して「強み」が何を指しているのか？それを活かすとはどういう事なのかを、具体的に学びます。

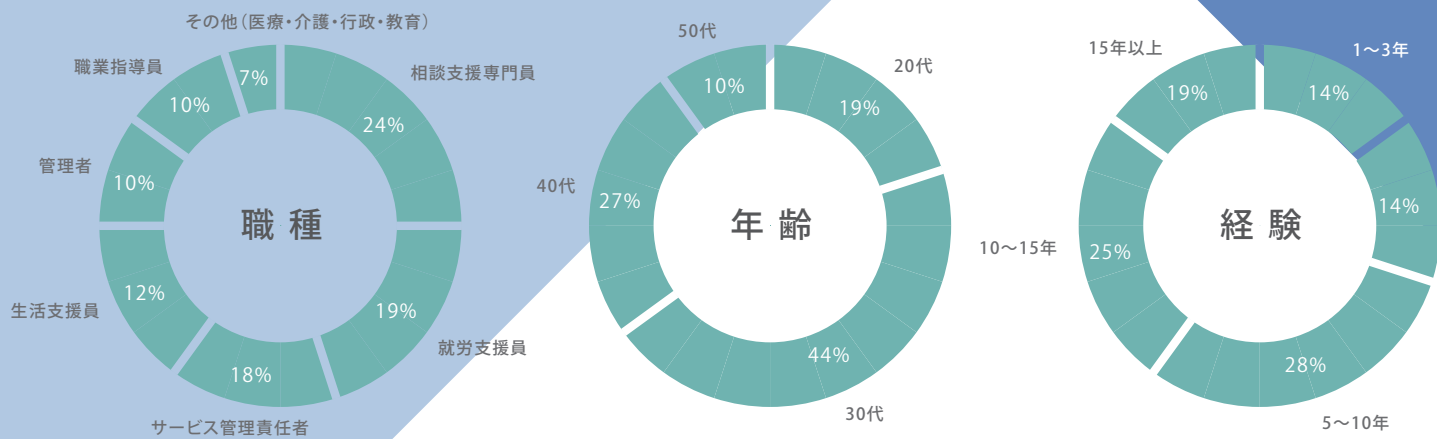
2019年度 面談スキル(満足度94%)

「ラポールが大切」「傾聴が大切」と聞きますが実際にどのように関わることがラポールなのか？どのような態度やセリフが傾聴なのか？などの具体的な手法(スキル)までは教えられていないのでは。受動的傾聴では面談において経験や感性ではなく、ミラーリングやペーシングなどのスキルとして傾聴とはどのような動作・表情なのか習得します。
また、積極的傾聴では、利用者の方の言葉の裏に秘められた想いを具体化していく手法を習得します。この積極的傾聴法を身につけることでプラン作成が劇的に変わります！

2019年度 自己理解の心理学(満足度94%)

人と人の違いを知り、お互いに尊重しあえる事を目的に作られたユングの類型論に基づいた自己理解メソッドMBTI®を活用したプログラム。
自分を理解し、より活かすために利用する事を最大の目的とし、キャリアカウンセリングやチームビルディングなどで使われ、世界で毎年約500万人の受講者があり、世界で一番利用されています。
本研修メイン講師でもあり、一般社団法人MBTI®協会認定ユーザでもある神谷が実施する『自己理解の心理学』のプログラムは、他の福祉の研修では経験できない内容となっております。

実践での支援力アップ ＋チームで共通言語をつくる！



本研修の受講生の傾向として、最も多い層は『30代で、経験年数が3～10年。支援員や相談、サービス管理責任者として支援提供の第一線で働きながらも後輩の育成なども担っている』方の受講が最も多いようです。

次に多い層の傾向としては『40代でサービス管理責任者や相談支援専門員、事業所管理者として人材育成などの中心にあり、持っている知識や技術を伝える際に言語化するスキルを求めている』方が多くなっています。

そうした、30代・40代の先輩との『共通言語』を身につけるために、『20代半ばで、所属長や上司から次のステップへと期待されている』もしくは『20代で即戦力として期待され、1人で責任を持って支援にあたっている』また、『20代前半で資格の有無に関わらず、現場で疑問に思っていることに対してさらに学びたい』方の受講も多いです。

これまでの傾向としては、法人から1人での受講が全体の43%。同一法人から3～4名で受講されている方々が35%。同一法

人から5名以上での受講が22%となっており、同一法人から複数名受講が全体の57%を占めていました。本研修は、上司も一緒に参加し、人材育成も兼ねた『共通言語づくりの場』にもなっているのも特徴の一つです。

2015年度は、全体の13%が前年度(2014年度)も受講された方となっていました。



アドバイザー：東 美奈子 氏

株式会社RETICE 取締役

保健師として総合病院、精神科病院勤務を経て、地域に拠点を移し精神障がい者支援を実践。愛ある支援をモットーに精神科看護を実践中。

実践していると、なんとなくわかっていくつもりになっていることを、具体的に学び直すことができたり、新たな気づきが生まれる時間になること間違いなし。学んですぐに、実践の場面で使えることが満載の研修です。講義だけでなく、仲間との意見交換を通じて、自分の日頃の支援のあり方を振り返り、一緒に当事者主体の支援について考えましょう。



アドバイザー：岡部 正文 氏

一般社団法人ソラティオ 代表

全国各地の相談支援の人材育成及びピアサポート専門員と相談支援専門員の協働実践のあり方及び相談支援事業における事業所マネジメントにも力を入れている。

分かりにくいことを分かりやすく学べる研修。それがこのスキルアップ研修と言えるのではないのでしょうか。受講者の立ち場に立って練られた企画は「なるほど!そういうことか!」の連続です。みなさんに気付きを与えてくれ、明日からの実践にきっと役立つでしょう。分かったことを実践してみる、ご本人の暮らしをより良くする鍵はあなたが握っています。



アドバイザー：有野 哲章 氏

社会福祉法人 蒼溪会 理事長

精神保健福祉士として、保健所や精神科病院など埼玉県に13年働く。現在は地域が変わること、精神保健医療福祉が変わることを求めて、地域の実践に力を入れて取り組んでいる。

アソシア主催のスキルアップ研修を受けた時、「学ぶことは、楽しい」と体感した。分かりやすく、丁寧で、面白いのがこの研修の特徴です。当然、「なんか良い話を聞いた」とどまらず、自分の実践にどのように活用できるか、実践に有効活用できることも間違いありません。お値段以上の収穫を、きっと受講後体感できると思います。

視点 × 実践 × 理論 ＝ スキルアップ

満足度98%

2019年度

※2014年度スキルアップ研修 満足度96%、2015年度スキルアップ研修 満足度97%

何度受講しても、新しい発見があります。(プログラム全体)

今までの研修で一番良かった!(プログラム全体)

いくつか研修を受講してきたが、どう実践していいのかわからず行っただけで終わっていたが、今回はどう行動していくか想像できるので仕事に行くのが楽しみです。(プログラム全体)

「休みの日なのに」が「楽しいかな」に変わり、「楽しいかな」が「最高!!」に変わった。最初から最後まで楽しく受けることができた。(プログラム全体)

今回学んだことで、自分自身の事業所においても新しいアセスメントシート(ICFやストレングスモデルを導入)を作れるのではないかと思えた。とても参考になった。(基本的視点)

グループディスカッションやこまめな休憩など、眠くならない、疲れにくいなど研修に集中できるよう配慮されていた点も良かった。(プログラム全体)

人は「省略」して話を聞いている。またその「省略」された部分を具体化するための質問のセリフや言い回しを数多く得ることができ、**すぐにも実践できそう**と思った。(面談技法)

2019年度 受講生の声



アドバイザー：後藤 智行 氏

柏駅前なかやまメンタルクリニック

日本精神保健福祉士協会 発達障害プロジェクトチーム チームリーダー。リワーク、発達障害支援などを専門にしている。ダイアログを様々な支援に実践的に取り入れ、全国各地で研修講演などを行っている。

支援の質を高めるために必要なことが沢山詰まっている研修です。支援の質を高めるために必要なことは、支援者自身が安心して支援の場に臨めることです。本研修では、支援の土台となることがしっかりとあり、今までにないしっかりとした足場が作られる研修です。どんな建物も土台は重要です。土台がしっかりとしていることが支援の安心に繋がる感覚を獲得してください。



アドバイザー：加藤 恵 氏

半田市社会福祉協議会
半田市障がい者相談支援センター センター長

知的・身体障がいの児者の現場で10年働いたのち、現在の相談支援センターにてセンター長として13年務めている。全国地域生活支援ネットワークの理事も務めている。

支援力の差は、対象の方やその家族を多角的な視点で捉えられるかどうかと知識やアイデアを持ち合わせているかも大きい。今回の研修はその多角的な見方とアイデアに気づかせてくれる研修だ。